



ヌマヅの住まい

STORY 1

“好きなもの” を楽しむ暮らし 富田 雅仁さん

沼津のアーケード名店街の近くに暮らす富田さん。30歳まで東京で料理人として忙しい日々を送っていたが、沼津の海が恋しくなり、沼津に帰ってきた。パソコンに精通していたこともあり、現在はIT関係の仕事をしている。そんな富田さんが平日の仕事帰りや休日になると必ず通う場所がある。そこは「小商い研究室」。ものづくり・飲食・カルチャー発信など様々な分野で独立を目指す人がゆるく何かを始めてみようとする。

学生の頃から音楽や本が大好きで、それらを楽しめるブックカフェを無理のない範囲で開きたいと考えていた。そ

こに「小商い研究室」を運営する山田 知弘さんから「小商い研究室」の一室を使わないかという話が。「なんかわかんないけど即答でOKしちゃったんです。」と笑いながら話す富田さんは楽しそうだ。



▲何かを始めてみたい、そんな人たちが集まる場所



▲富田さんの部屋の他にもアンティーク雑貨や小道具などで埋め尽くされた部屋、映画に出てくる料理を楽しめる部屋などもある

「小商い研究室」は中古物件をリノベーションしたものだ。床や壁などの最低限の改修だけを行い、残りはここに通う人たちがDIYをして少しずつ作り上げている。富田さんの部屋は、自分の理想のブックカフェをイメージして作った。友達がふらっと訪れた時やイベントをやる時などはコーヒーや軽食なども提供しているそう。

押入れを壊してカウンターを作ったり、ソファや本棚を置いたりして自分の好きな音楽や本を楽しめる空間を作った。「心に引かれたものにはとことんのめり込んじゃうんです。」富田さんの手掛けた部屋には大好きなものとこだわりに満ち溢れている。



▲押入れを壊して作ったカウンター



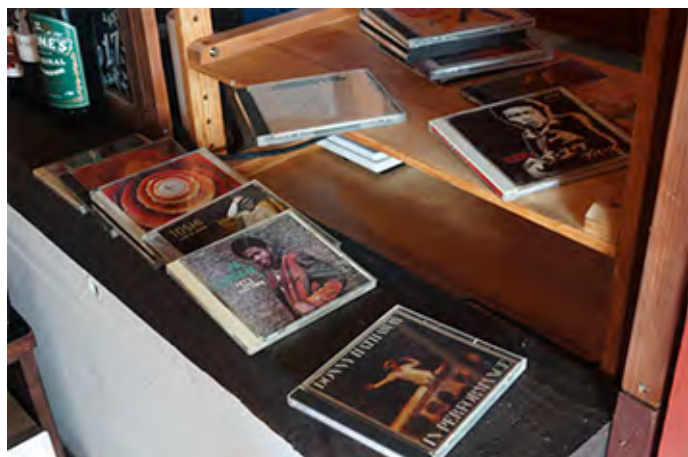
▲オーディオ機器は音だけでなく見た目にもこだわっている



▲シンプルなデザインで心地いい音を聞かせてくれる



▲オーディオデッキの上にディスプレイされているのは富田さんのお気に入りのCDやカセットテープなど



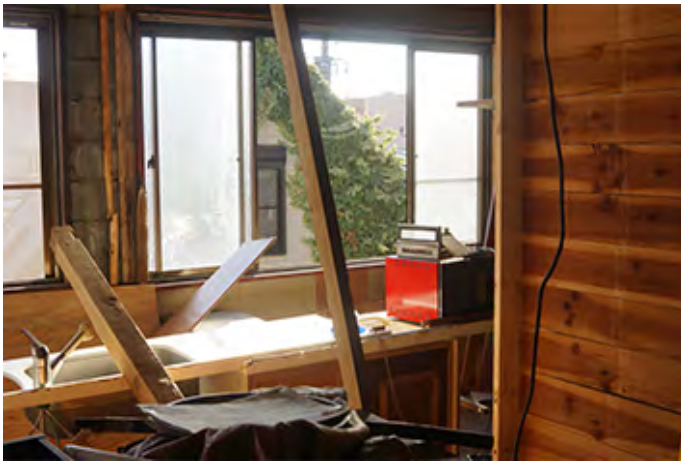
▲いつも聞いているのはお気に入りの 1970 年代のニューソウル



▲音楽関係の本や写真集などが好き
「最近ジャケ買いが多いですね。カッコいい表紙を見つけたら買っちゃいます。」



▲オススメの本を紹介してもらっていたらいつの間にかこんな状態に



▲仲間とシェアキッチン開設に向けてDIY
ゆるく話し合ったことを「それいいね!」と、とりあえず形にしていく



▲好きな音楽をかけながら本を呼んでゆったりとした時間を過ごす
まるで映画のワンシーンを切り取ったような空間だ。

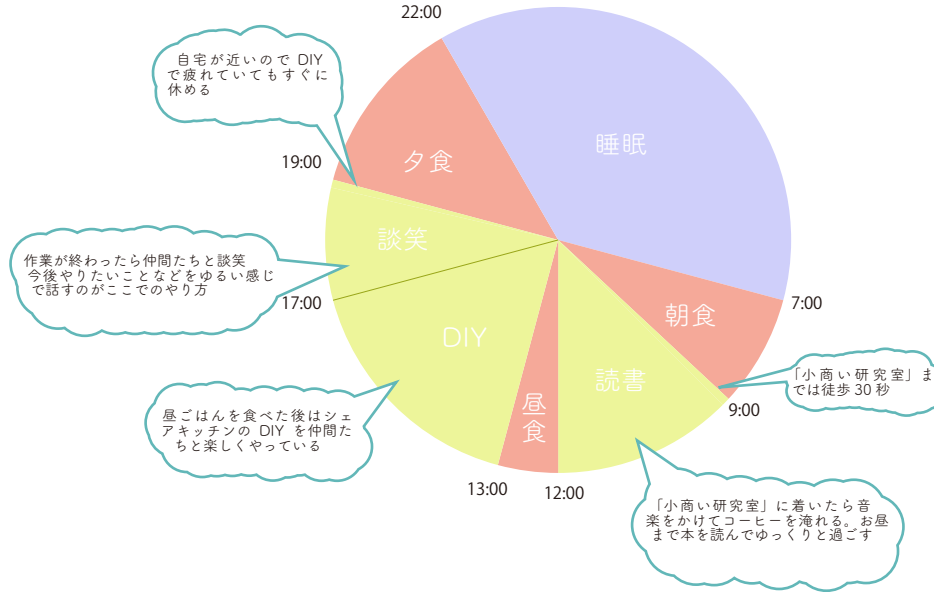


DIYに手を出し始めたのはここに通うようになってから。今では趣味の一つになっている。「みんなで空間を作っていくのが楽しいです。近隣の人も巻き込んでさらに面白いことができたらいいですね。」

富田さんの自宅は「小商い研究室」から徒歩30秒。仕事場は徒歩5分。富田さんは自宅は寝る場所、「小商い研究室」はリビングというようにそれぞれの場所で機能を使い分けて街中での生活を楽しんでいる。

「小商い研究室」にはまだ手をつけていない屋上がある。ゆくゆくはそこに屋上庭園を作りたいという。「郊外の屋上はもちろん綺麗だと思うんですけど、まちなかのごちゃごちゃしたところから一気に吹き抜ける感じが好きですね。」富田さんの言う通り、屋上へ上がるとまちから頭一つ抜けた感じがして開放的な気分になる。晴れた日には富士山の眺望が美しい特等席だ。

富田さんのある一日



ひとことメモ

「小商い研究室」には様々な年代の人が通っている。それぞれやりたいこと、好きなことは違うがそれを全力で楽しんでいる。

そんな人たちとのゆるい繋がりを大切にしながら好きなことを楽しんでいく。まちなかはそんな暮らしをするのに丁度いい場所だと感じた。